

プレスリリース

2016年10月27日

報道関係各位

公益財団法人 日本糖尿病財団
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
日本イーライリリー株式会社

ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー 糖尿病研究助成プログラムの助成金交付対象者決定 糖尿病領域での革新的な基礎研究を助成

公益財団法人 日本糖尿病財団（東京都文京区、理事長：岩本安彦 以下「日本糖尿病財団」）と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社（東京都品川区、代表取締役社長：青野吉晃 以下「日本ベーリンガーインゲルハイム」）、日本イーライリリー株式会社（兵庫県神戸市、代表取締役社長：パトリック・ジョンソン 以下「日本イーライリリー」）は、本年7月1日から8月末日までの応募期間で募集していた糖尿病の基礎研究に関する助成プログラムの助成金交付対象者を、本日決定したことをお知らせ致します。

ベーリンガー／リリー糖尿病研究助成プログラムは、糖尿病基礎研究のより一層の発展に貢献することを目的に、日本糖尿病財団と日本ベーリンガーインゲルハイム、日本イーライリリーにより設立されました。募集研究テーマは年度毎に検討され、本年度の募集テーマは、「Sodium glucose cotransporter 2 (SGLT2)に関する研究(基礎研究に限る)」でした。

本年度は、全国から寄せられた28件の応募の中から、日本糖尿病財団選考委員会の厳正な審査および、理事会による最終選考の結果、下記3名の研究者が助成金交付対象者として選ばれました。助成金交付対象者には、研究課題1件につき300万円の助成金が交付されます。

第3回(平成28年度) ベーリンガー／リリー糖尿病研究助成金交付対象者

氏名	所属	研究課題
高本偉碩(たかもといせき)	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 特任講師	SGLT2に着目した新たな糖代謝調節機構の解明と動脈硬化の制御
清水逸平(しみずいっぺい)	新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学 特任准教授	SGLT2 阻害薬による心臓老化抑制機構の解明
長谷川一宏(はせがわかずひろ)	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 助教	SglT2 阻害による抗加齢分子 Sirt1/NMN と尿細管糸球体連関の保持効果の検証

助成プログラムに関する情報は、日本糖尿病財団のホームページにてご確認ください。

<http://www.j-df.or.jp/grant.html>

参考情報

公益財団法人 日本糖尿病財団について

日本糖尿病財団は、平成3年9月に設立された厚生労働省認可の財団法人です。その後、公益法人改革に伴い、行政庁(内閣府)より公益財団法人の認可を得、平成25年4月1日に公益財団法人に移行しました。糖尿病に関する調査研究の実施及び助成、並びに糖尿病に関する正しい知識の普及・啓発活動の実施及び助成、糖尿病に関する国際交流活動の実施及び助成、糖尿病に関する印刷物の刊行など、さまざまな事業を行い、もって国民の健康の増進に寄与することを目的としています。

ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーの提携について

2011年1月、ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーは、糖尿病領域におけるアライアンスを結び、同領域において大型製品に成長することが期待される治療薬候補化合物を中心に協働していくことを発表しました。同アライアンスは、ベーリンガーインゲルハイムが持つ研究開発主導型イノベーションの確かな実績とイーライリリー・アンド・カンパニーが持つ糖尿病領域での革新的な研究、経験、先駆的実績を合わせ、世界的製薬企業である両社の強みを最大限に活用するものです。この提携によって両社は、糖尿病患者ケアへのコミットメントを示し、患者のニーズに応えるべく協力しています。

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムは、世界でトップ20の製薬企業の1つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で145の関連会社と47,500人以上の社員が、事業を展開しています。1885年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物薬の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任は企業文化の重要な柱であり、その中にはグローバル規模のイニシアチブ「Making More Health(人々のより良い健康の実現を目指して)」などの社会的なプロジェクトへの関与や、社員への思いやりの精神などがあります。また、お互いに配慮し、平等な機会を提供し、業務やキャリアと家族生活との調和を重んじることは、相互協力の基盤となるものです。また、環境保護と持続可能な社会の実現に向けて注力しています。

2015年度は148億ユーロ(約1兆9873億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、売上の20.3%相当額を研究開発に投資しました。

日本ではベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社が持ち株会社として、その傘下にある完全子会社の日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(医療用医薬品)、エスエス製薬株式会社(OTC 医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパン株式会社(動物用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社(医薬品製造)の4つの事業会社を統括しています。

日本ベーリンガーインゲルハイムは、循環器、呼吸器、糖尿病、腫瘍、中枢神経 などの疾患領域で革新的な医療用医薬品を提供しています。

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、必要とする人々の生活を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。

イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病患者さんやケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病患者さんの生活の改善に努めます。詳細はウェブサイトをご覧ください。

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、疼痛、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん、結腸・直腸がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.j-df.or.jp/>

(日本糖尿病財団)

<http://www.boehringer-ingenelheim.com>

(ベーリンガーインゲルハイム)

<http://www.boehringer-ingenelheim.co.jp>

(ベーリンガーインゲルハイムジャパン)

<http://www.lilly.com>

(イーライリリー・アンド・カンパニー)

<http://www.lilly.co.jp>

(日本イーライリリー)